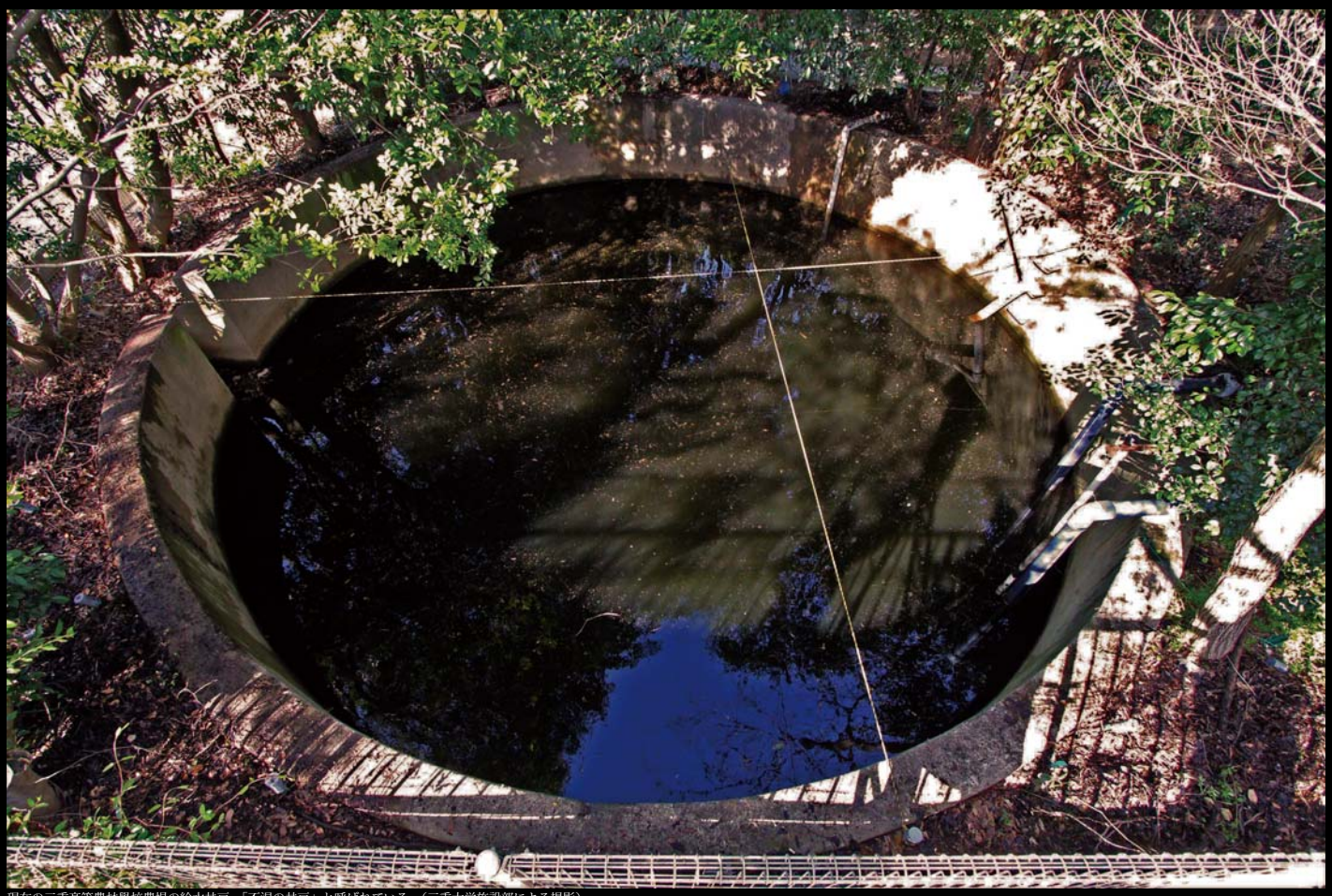
三重高等農林學校農場の給水井戸

（みえこうとうのうりんがっこうのうじょうきゅうすいいど）

中部地方の選奨土木遺産

平成２８年度登録

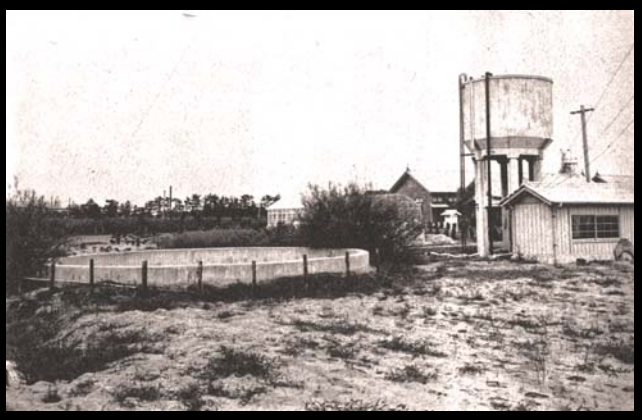
所在地：津市栗真町屋町　　竣工年：１９２４（大正１３）年
管理者：三重大学
認定理由：三重大学農学部の前身である三重高等農林學校の設立後に
農場の土地改良のために教官と学生が協力して整備した灌漑施設。



現在の三重高等農林學校農場の給水井戸。「不渇の井戸」と呼ばれている。（三重大学施設部による撮影）

1921（大正 10）年に創立された三重高等農林學校（三重大学農学部の前身）は、伊勢湾岸地域の荒廃した畑地跡と低湿地に位置しており、必要な実験農場の設備も備えていなかった。その地に当時の農業土木の技術をもって、土地改良により農場を拓くプロジェクトに取り組んだ。井戸を掘り、汲み上げる淡水をもって灌漑し、土質から農業に有害な塩分を取り除いた。それらは全て教官たちと新入の学生が協力して実施した全て手作りの作業であり、いまで言う DIY による労作である。この水源により、農場は大いに機能するようになった。この井戸に伝わる創立の精神の物語は、1970 年に農場が移転した後も「不渇の井戸」として語り継がれている。

現在確認できる直径９mの水甕は、「貯水池」として設けられたもので、その底から「掘抜井戸」が地下 75m にある水脈まで掘られている。地下の帯水層から水は「上質真竹製」の樋を通して得ている。当時は貯水池からは鉄筋コンクリート製の「貯水槽」へ水をポンプアップして貯めて農場全域へ配水されたが、この部分は既に新しく改修されている。遺されている『工事材料設計仕様書』には、貯水池を囲むコンクリート製の壁の美観を保つためにモルタルできれいに仕上げることや、それを囲む盛土に芝をはることなどが指示されており、永く使用するべき重要な施設として丁寧にデザインされたことがわかる。



◀ 完成当時の風景
『翠丘學園の十年』（三重高等農林学校発行）より

▲ 1933 頃の周辺風景　一面の農場が広がっている。
『創立５０周年記念誌』（三重大学農学部発行）より